

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年8月5日

【四半期会計期間】 第76期第1四半期(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

【会社名】 ケイヒン株式会社

【英訳名】 THE KEIHIN CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 杉 山 光 延

【本店の所在の場所】 東京都港区海岸3丁目4番20号

【電話番号】 03 - 3456 - 7825 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 荒 井 正 俊

【最寄りの連絡場所】 東京都港区海岸3丁目4番20号

【電話番号】 03 - 3456 - 7825 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 荒 井 正 俊

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
ケイヒン株式会社(横浜地区)
(神奈川県横浜市鶴見区大黒埠頭15番地2)
ケイヒン株式会社(名古屋地区)
(愛知県名古屋市中川区玉船町2丁目1番地)
ケイヒン株式会社(大阪地区)
(大阪府大阪市北区大淀南1丁目5番1号)
ケイヒン株式会社(神戸地区)
(兵庫県神戸市中央区小野浜町11番47号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第75期 第1四半期 連結累計期間	第76期 第1四半期 連結累計期間	第75期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年6月30日	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (百万円)	13,448	16,299	54,108
経常利益 (百万円)	965	1,293	3,286
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	659	887	2,263
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	485	1,210	2,187
純資産額 (百万円)	19,791	22,376	21,493
総資産額 (百万円)	41,490	42,575	41,989
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	101.03	135.87	346.64
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	47.7	52.6	51.2

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）のわが国経済は、一部に持ち直しの動きがみられたものの、円安や資源価格高騰による物価上昇、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響等により、先行きは不透明な状況にあります。

このような環境の中、当社グループにおいては、国内物流事業は、倉庫保管・入出庫の取扱いが増加しましたが、配送取扱いの減少により減収減益となり、国際物流事業は、複合一貫輸送・プロジェクト貨物の取扱い増、輸出車両の海上輸送の運賃高騰の影響等により増収増益となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は162億9千9百万円（前年同期比28億5千1百万円の増収、21.2%増）、営業利益は10億9千2百万円（前年同期比1億9千万円の増益、21.1%増）、経常利益は12億9千3百万円（前年同期比3億2千8百万円の増益、34.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億8千7百万円（前年同期比2億2千7百万円の増益、34.5%増）となりました。

当社グループのセグメント別の業績は、次のとおりであります。

国内物流事業

国内物流事業におきましては、倉庫業は、保管・入出庫の取扱いが増加し、売上高は18億6千3百万円（前年同期比10.2%増）、流通加工業の売上高は13億4千6百万円（前年同期比33.0%減）、陸上運送業は、配送取扱いが減少し、売上高は30億6千6百万円（前年同期比23.7%減）となりました。

以上の結果、国内物流事業の売上高は64億8千2百万円（前年同期比14億4千万円の減収、18.2%減）、営業利益は6億8千9百万円（前年同期比1億9千8百万円の減益、22.4%減）となりました。

国際物流事業

国際物流事業におきましては、国際運送取扱業は、複合一貫輸送・プロジェクト貨物の取扱い増、輸出車両の海上輸送の運賃高騰のほか、円安の影響もあり、売上高は90億3千1百万円（前年同期比90.8%増）、航空運送取扱業は、輸出貨物の取扱いが減少したものの輸入貨物の取扱いが増加し、売上高は5億2千5百万円（前年同期比4.8%増）、港湾作業は、船内荷役・沿岸荷役とも減少し、売上高は5億8百万円（前年同期比7.7%減）となりました。

以上の結果、国際物流事業の売上高は100億6千5百万円（前年同期比42億8千万円の増収、74.0%増）、営業利益は8億1千万円（前年同期比4億9百万円の増益、102.3%増）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比較して5億8千5百万円増加し425億7千5百万円となりました。この要因は、有形固定資産の減価償却の進捗等により固定資産が1億7百万円減少したものの、現金及び預金の増加等により流動資産が6億9千6百万円増加したことによるものであります。

一方、負債合計は、前連結会計年度末と比較して2億9千7百万円減少し201億9千8百万円となりました。この要因は、未払法人税等や借入金が減少したことによるものであります。

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したため、前連結会計年度末と比較して8億8千3百万円増加し223億7千6百万円となりました。

純資産の増加及び借入金が減少したことにより、自己資本比率は、前連結会計年度末の51.2%から52.6%へ改善した一方で、借入金依存度は、前連結会計年度末の23.0%から21.6%へ低下しました。

決算年月	2021年6月	2022年6月	2022年3月
自己資本比率(%)	47.7	52.6	51.2
借入金依存度(%)	26.6	21.6	23.0

(注) 自己資本比率：自己資本 / 総資産
借入金依存度：借入金残高(社債含む) / 総資産

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更または新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,800,000
計	24,800,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年8月5日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,536,445	6,536,445	東京証券取引所 (スタンダード市場)	単元株式数は100株で あります。
計	6,536,445	6,536,445		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年6月30日		6,536		5,376		3,689

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2022年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,517,500	65,175	
単元未満株式	普通株式 11,545		
発行済株式総数	6,536,445		
総株主の議決権		65,175	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式100株（議決権1個）が含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己保有株式99株が含まれております。

【自己株式等】

2022年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) ケイヒン株式会社	東京都港区海岸3丁目4-20	7,400		7,400	0.11
合計		7,400		7,400	0.11

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,104	7,785
受取手形及び営業未収金	4,654	4,554
電子記録債権	226	248
その他	1,384	1,480
貸倒引当金	5	5
流動資産合計	13,365	14,062
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	47,974	48,046
減価償却累計額	35,159	35,428
建物及び構築物(純額)	12,814	12,618
機械装置及び運搬具	2,898	2,903
減価償却累計額	2,381	2,413
機械装置及び運搬具(純額)	516	489
工具、器具及び備品	2,240	2,259
減価償却累計額	1,915	1,946
工具、器具及び備品(純額)	325	313
土地	6,809	6,809
リース資産	1,378	1,355
減価償却累計額	686	702
リース資産(純額)	691	652
建設仮勘定	73	62
有形固定資産合計	21,232	20,946
無形固定資産		
借地権	977	977
その他	390	364
無形固定資産合計	1,367	1,341
投資その他の資産		
投資有価証券	4,879	5,191
繰延税金資産	304	191
その他	848	854
貸倒引当金	42	43
投資その他の資産合計	5,989	6,193
固定資産合計	28,589	28,482
繰延資産		
社債発行費	33	30
繰延資産合計	33	30
資産合計	41,989	42,575

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	2,608	2,781
短期借入金	3,741	3,602
1年内償還予定の社債	860	860
リース債務	217	210
未払法人税等	816	376
その他	1,673	2,214
流動負債合計	9,917	10,045
固定負債		
社債	2,360	2,360
長期借入金	2,702	2,367
リース債務	543	508
繰延税金負債	27	68
役員退職慰労引当金	1,068	933
退職給付に係る負債	2,535	2,577
長期前受金	966	966
その他	374	370
固定負債合計	10,578	10,152
負債合計	20,496	20,198
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,376	5,376
資本剰余金	4,415	4,415
利益剰余金	11,193	11,753
自己株式	14	14
株主資本合計	20,971	21,531
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	749	942
為替換算調整勘定	184	59
退職給付に係る調整累計額	42	38
その他の包括利益累計額合計	522	845
純資産合計	21,493	22,376
負債純資産合計	41,989	42,575

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	13,448	16,299
売上原価	12,068	14,711
売上総利益	1,379	1,588
一般管理費	477	495
営業利益	902	1,092
営業外収益		
受取利息及び配当金	103	111
為替差益	-	103
その他	7	14
営業外収益合計	111	230
営業外費用		
支払利息	22	19
為替差損	18	-
その他	7	10
営業外費用合計	48	29
経常利益	965	1,293
特別損失		
固定資産処分損	0	-
特別損失合計	0	-
税金等調整前四半期純利益	964	1,293
法人税、住民税及び事業税	262	346
法人税等調整額	42	60
法人税等合計	305	406
四半期純利益	659	887
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	659	887

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	659	887
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	287	193
為替換算調整勘定	108	124
退職給付に係る調整額	4	4
その他の包括利益合計	174	322
四半期包括利益	485	1,210
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	485	1,210
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第 1 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。
 なお、第 1 四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 6 月30日)
減価償却費	473百万円	412百万円

(株主資本等関係)

前第 1 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 6 月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年 5 月24日 取締役会	普通株式	326	50.0	2021年 3 月31日	2021年 6 月30日	利益剰余金

当第 1 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 6 月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年 5 月23日 取締役会	普通株式	326	50.0	2022年 3 月31日	2022年 6 月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	国内物流事業	国際物流事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,691	5,756	13,448	-	13,448
セグメント間の内部売上高 又は振替高	231	28	259	259	-
計	7,922	5,784	13,707	259	13,448
セグメント利益	888	400	1,288	386	902

(注) 1 セグメント利益の調整額 386百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用 380百万円であります。全社費用は、主として報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	国内物流事業	国際物流事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,257	10,041	16,299	-	16,299
セグメント間の内部売上高 又は振替高	225	23	249	249	-
計	6,482	10,065	16,548	249	16,299
セグメント利益	689	810	1,499	406	1,092

(注) 1 セグメント利益の調整額 406百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用 406百万円であります。全社費用は、主として報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	国内物流事業	国際物流事業	
倉庫	1,680	-	1,680
流通加工	2,010	-	2,010
陸上運送	3,819	-	3,819
国際運送取扱	-	4,731	4,731
航空運送取扱	-	501	501
港湾作業	-	524	524
その他	6	-	6
顧客との契約から生じる収益	7,517	5,756	13,273
その他の収益(注)	174	-	174
外部顧客への売上高	7,691	5,756	13,448

(注)「その他の収益」の区分は、施設賃貸の収益であります。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	国内物流事業	国際物流事業	
倉庫	1,853	-	1,853
流通加工	1,346	-	1,346
陸上運送	2,877	-	2,877
国際運送取扱	-	9,031	9,031
航空運送取扱	-	525	525
港湾作業	-	484	484
その他	2	-	2
顧客との契約から生じる収益	6,079	10,041	16,121
その他の収益(注)	177	-	177
外部顧客への売上高	6,257	10,041	16,299

(注)「その他の収益」の区分は、施設賃貸の収益であります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 6 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	101.03円	135.87円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	659	887
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	659	887
普通株式の期中平均株式数 (千株)	6,529	6,528

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2022年 5 月23日開催の取締役会において、2022年 3 月31日の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|---------------------|--------------|
| (1) 配当金の総額 | 326百万円 |
| (2) 1 株当たりの金額 | 50円00銭 |
| (3) 効力発生日および支払開始日 | 2022年 6 月30日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年8月5日

ケイヒン株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 海野 隆 善
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 諸 貫 健太郎
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているケイヒン株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ケイヒン株式会社及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。